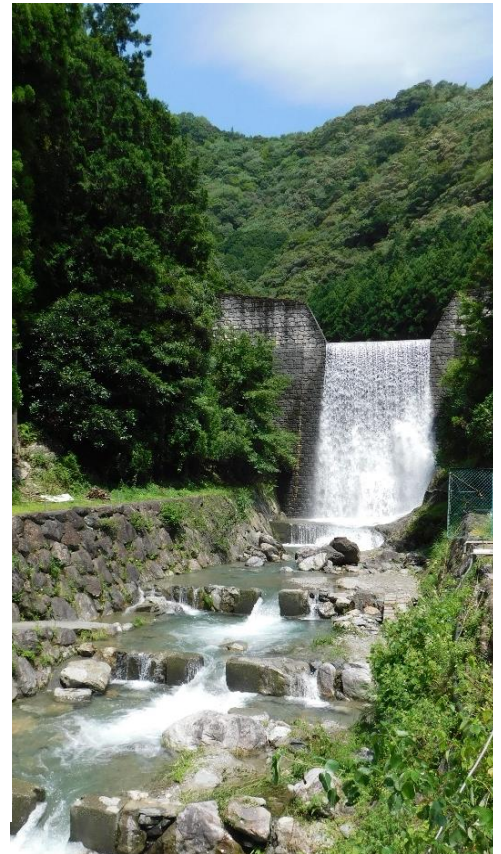
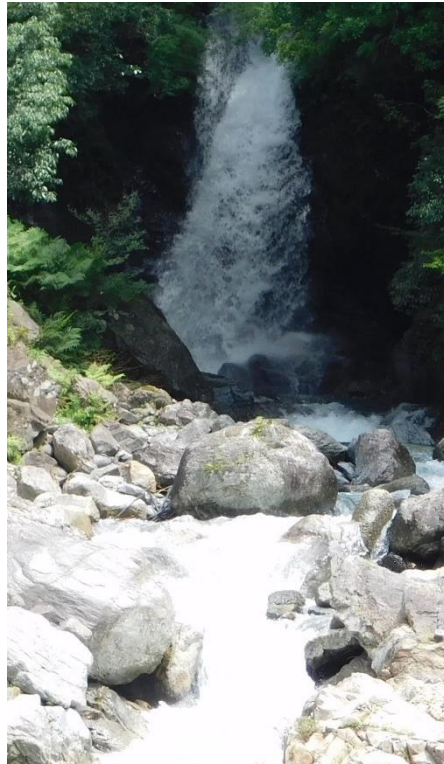
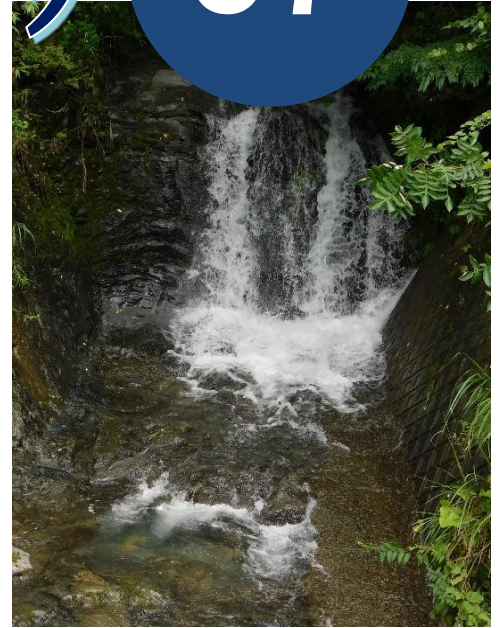


領内出張所だより

87



涼を求めて

宮川に流れ落つ

～ 滝・たき・taki～

平成 29 年
(2017 年)

8月

道具を動かす道具

道具が画期的に進化し便利な家電や電動の道具が生み出された背景には、家庭にやってきた電気の存在があります。それまでに私たち人間が手間を掛けてやっていたことを、道具が電気の力によって代わりにしてくれるようになったのは“革命”のような変化でした。道具が大型化し、均一で大量に生産されるモノは精度を増し、日本経済は“モノづくり”で発展していきました。

この電気を生み出す道具として“電池”が発明されたことも大きな出来事でした。日本に初めて電池を運び入れたのはペリーだと言われています。江戸から明治維新・文明開化の激動の時代に“道具を動かす道具”が現れました。

しかしながら、電池は直流であるということもあり活躍の場を多く持ち合わせていませんでした。それでも電池を使う道具は懐中電灯をはじめ、時計やリモコン類などと様々な作られました。ストーブやガスコンロの点火用にも電池が使われていますよね。このくらいの使用だとマンガン電池を使うほうがよいらしいです。



アルカリ電池



リチウム電池

マンガン電池



電池が使えるかを調べる器具
(バッテリーチェッカー)

電池自体も改良されながら時代に合わせていきます。何とかもっと大きな電力が使える電池は作れないものなのかと開発は進みます。アルカリ電池が登場し、リチウム電池・ニッケル水素電池・リチウムイオン電池と続き、力の必要な道具を動かすことが出来るようになりました。

ニッケル水素電池の最たるモノは三洋電機（現パナソニック）のエネループという商品で、繰り返し充電が出来る優れものです。



ニッケル水素電池



エネループ専用ケース



ワイヤレス充電ができる機器

もの **道具** は使しよう
活かしてこそその利器

用途によっても電池は派生していきます。

リチウムイオン電池は携帯電話やデジタルカメラに合わせて形状を変えていきました。スマートフォンには内蔵させたり、デジタルカメラ用は充電が出来ないようにしているのは企業それぞれの都合に依りというところでしょうか。

余談ですが、ノート型パソコンの充電電池もこのリチウムイオン電池が使われています。そして通常はコンセント電源から電気を供給させていますが、実はACアダプターという“道具”を使って、交流100Vの強い電気を直流のもっと小さい値にしているのです。テレビなども交流を直流にして映像を観ることが出来る機器なんです。不思議ですね。

よく“インバーター”という言葉を目にしますが、インバーター式とは直流に換えた電気を再度交流に制御しながら賢く使うための工夫です。こちらもよく考え付くなあと感心してしまいます。これによって省エネが一気に進みました。



携帯電話用



デジタルカメラ用



いろんな電動工具などに使えるタイプ

電池の未来像

近年、このリチウムイオン電池を軸にして様々な開発やモノづくりがなされています。そのなかで注目したいのは“電気自動車”と“モバイルバッテリー”の未来。そして“充電電池から蓄電池へ”というキーワード。

電気自動車の電池開発はとても激しい競争になっていて、最終的にどうなっていくのか未知数なのだそうです。昔、競い合っていたホームビデオ方式でVHSがベータを打ち負かした時のように、ある時期が来れば一本化するのでしょうか。旅先や用事先で充電スタンドの順番待ちを見掛けると気の毒に感じます。どのメーカーも同じ電池を搭載するようになって、あちらこちらで電池ごと交換してくれるサービスを提供してくれたら、もっと利用者が増えると考えられます。電池が“着脱式”のカートリッジになったら現状は大きく変わるでしょう。

もうひとつ挙げたモバイルバッテリーはここ5年で急激に進化しました。特に大容量のモノを安く作ることが出来るようになったそうです。これについては、蓄電池のことと併せて次号で書きたいと思います。

今月の備忘録

忘れないでね!

大台町では今年も9月に

『大台町環境クリーン運動』を実施します。

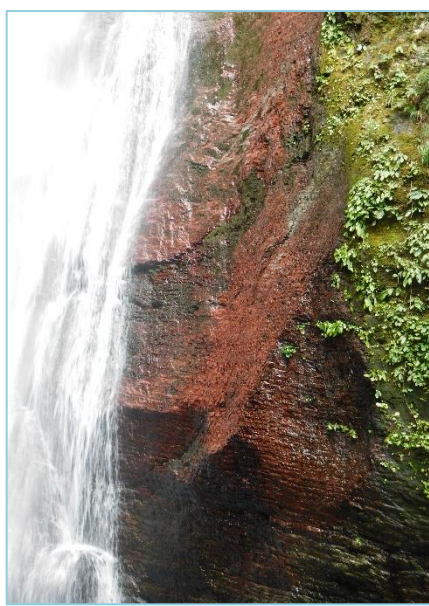
「自分たちの地域の自然環境は自分たちで守ろう」を合言葉に
地域ぐるみの清掃活動を実施し、自然環境の保護及び意識の
高揚を図ることを目的とします。

9月10日(日) 午前8時～

※ 雨天決行。荒天の場合、10月15日(日)に延期。

区単位で行いますので、集合時間などは各区で確認を!

軍手やタオルなどを忘れずにご持参ください。



おとがき

今号は領内地区内の滝を巡ってきました。台風が過ぎ去ったあとだったので、どの滝も水量が豊富で豪快な様子を見せてくれました。雨後にしか姿を現さない滝にも久し振りに対面することができました。

しばらく脚が遠のいてしまっている滝に壱谷(からすきだに)の「レンガ滝」があります。もう十五年以上前に一度訪れたきりでした。私個人はここも領内(実は住所は岩井だから大杉谷地区)という感覚でしたので、いつでも行けると思いながら過ごしてしまっていました。

表紙の滝は生活道路から望めるものばかりですが、このレンガ滝は少し山道を歩かなければなりません。汗もかきますし体力も使います。ヒルに咬まれたところが腫れてしまいました。他にはない岩肌の見事な美しい滝を満喫することが出来ました。